

市民病院だより

病気から身を守るために

小城市民病院感染対策委員会

病院には、病気の方がたくさん来られます。中には、今年度流行した、インフルエンザのような強い感染力を持った病気の方もおられます。そんな中、なぜ診察に当たる医師や看護師は、病気にならないのか不思議に思われたことはないでしょうか。

今回は、感染対策についてお話しします。

病気が人から人に感染するには？

病気が人から人につづるには、感染の三要素（感染源、感染経路、感受性宿主）の全てを満たさなければ成立しません。例を上げてみましょう。AさんとBさんがいます。ある日、Aさんが風邪を引き

ました（感染源）。Aさんが咳やくしゃみをする度にバイ菌が飛び散ります（感染経路）。そこにBさんが体調がすぐれない状態（感受性宿主）でAさんに近づき、バイ菌を吸い込むと、感染が成立し、Bさんも風邪を引くのです。

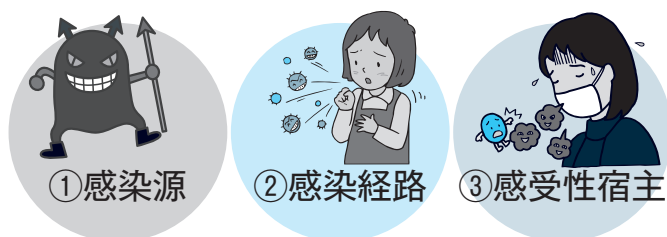
では、仮にAさんが風邪を引いている間マスクをしていたら、どうでしょう。バイ菌は飛び散らずに済んだと思われます。

また、Bさんが予防のためマスクをしていたら、バイ菌を吸い込まずに済んだかもしれませんし、元気な状態で抵抗力が強ければ、体の中にバイ菌が入り込んでも病気にならなかったかもしれません。つまり、どこか1箇所でも、バイ菌を遮断できれば風邪がうつらずに済んだのです。

咳エチケットや手洗い、うがい、励行されていますが、これらの行為は、病気が感染していく過程でのどこかひとつを遮断するため

の手段なのです。もちろん、病気の種類によって感染経路やその対策は変わりますし、これらの行為に関わらず感染することもあります。しかしこれらの予防策を行うことで、感染のリスクはかなり縮小出来ます。医療従事者が患者様の病気に感染しにくいのは、こうした予防策を常に行っているからなのです。

感染の三要素



どこか1つを遮断すれば感染は予防出来る。

感染対策は日常生活から

皮膚には、体の中に菌が入るの

を防ぐ役割があります。バイ菌は皮膚がない箇所、口や鼻の中などの粘膜の部分に付着した際に体内に入る危険性が高いのです。マスクを着用することで、皮膚の代わりに粘膜を外敵（バイ菌）から守ってくれます。マスクは、病気の時は菌の飛散を防ぎ、健康な時は皮膚の代わりとなってバイ菌の侵入を防ぐといった、感染対策において有用な役割を果たします。

病気予防の重要性

特別な医療を行わなくても病気は予防出来ます。病気にかかってから治すのではなく、かからないように予防することが大切です。日頃からしっかりとした感染予防を心がけましょう。

時間外受診をされる方へ

【問合せ】小城市民病院

急病等での時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。
☎73-2161 ホームページ・アドレス <http://www.ogishimin-hp.jp/>